

新日鉄・住金 統合へ

粗鋼生産能力 世界2位

来年10月めど

鉄鋼最大手の新日本製鉄と3位の住友金属工業は3日、2012年10月をめどに経営統合をする検討に入ったと発表した。実現すれば粗鋼生産能力で世界2位グループに浮上、最大手アルセロール・ミタルの追撃態勢が整う。自動車や電機など主要顧客が海外進出を加速し、経済発展が続く新興国で鉄鋼需要が急増するなど今後の成長には外需の取り込みが不可欠。統合で国内基盤を強化しつつ海外市場を共同開拓し、世界的な勝ち残りを目指す。

新日鉄の宗岡正二社長と住金の友野宏社長は2年に川崎製鉄とNKKが統合しJFEホールディングスが発足して以来、

引委員会が認めること、合併による事業持ち株会社形態での統合を

目指す。経営統合比率は今後詰める。新会社は名称や本社所在地、社長などは今後決める。両社の社長を共同委員長とする統合検討委員会を発足させ、検討を急ぐ。

09年の両社の粗鋼生産量を合わせると約3800万トンで世界第4位に浮上する。09年は需要急減で新日鉄も住金も大規模な減産を実施、中国勢が国策で合従連衡を進めたこともあり新日鉄は08年の2位から6位まで順位を落としていた。生産能力を合算すると約5000万トン規模となり、中国勢を抑え世界2位になる可能性がある。

鉄鋼業は巨大な製鉄所を抱える装置産業で、規模が大きいほどコスト面で優位に立ちやすい。また鉄鉱石と石炭の高騰で今期の鉄鋼業界の原料コストは増えるが、統合で生産量が増えれば原料の仕入れや、鋼材の販売価格交渉で発言力が増す利点もある。



記者会見で握手する新日鉄の宗岡社長(左)と住友金属の友野社長(3日午後、東京都千代田区)

日本経済新聞

特報

ご購入・ご試読のお申し込み

☎0120-83-4946

<http://www.nikkei4946.com/tg/>



■試読紙は、原則毎月10日～20日の間の合計7日間お届けします。

■複数の試読お申し込みは、お断りさせていただく場合があります。

電子版アドレス

<http://www.nikkei.com/>